環海異聞

十一

共十六

内閣文庫

内閣文庫			
和書			
三五一九五			
一六冊			
一八五函			
八架			

内閣文庫

番號	和	35195
冊數	16	(12)
函號	185	107

国立公文書館
National Archives of Japan

編纂地誌備用典籍

環海異聞巻之十一

都府滞留中之二

國王の通行しるまを出るとき錦（カナ）を
たてらる車馬ありとも
一源流人家おのゝ帝に前よりしりぞく毎に
車をたゝきたゝいて夷人の人名或は人々集り
て見物あるゝ事なきのれを不作法のるふて

国立公文書館
National Archives of Japan

又せんかくあるべしとてかくの扱をしと
下知あるべしと
先帝の時ハ通行の節車ハ多数百人ハ
又数百人ハ有れども合ぜ合る事ハ
質素ニ成るべし馬数ハ十五疋ハ
すべしとの事ハ
用ハ費なく家時ハ
あれハ帆の船甲使節の船なり又曰ハ
指揮ハ時ハ格式の通ハ使人数多く国王の行幸

船の用習ふて
使者と又遣ふ
ことを

兵数の前ハ
次ハ鉄炮の
の人くるよりも
三ハ通ハ
行ふ
行列ハ
隊人立て
兵数百人一隊ハ色替ハ
ハ持ち
ハ
ハ
ハ

あちこち無るよう遠くして進ぜするよう仕ること
御入て此日王ハ也く紙内ハある寺院ハ詣でらるゝと
なりられハ時のゝ少て寺宝ちと見ず殊ハ外厳密
あるるよう

都の度ハ日本軍教の武軍ハ方ハあるく

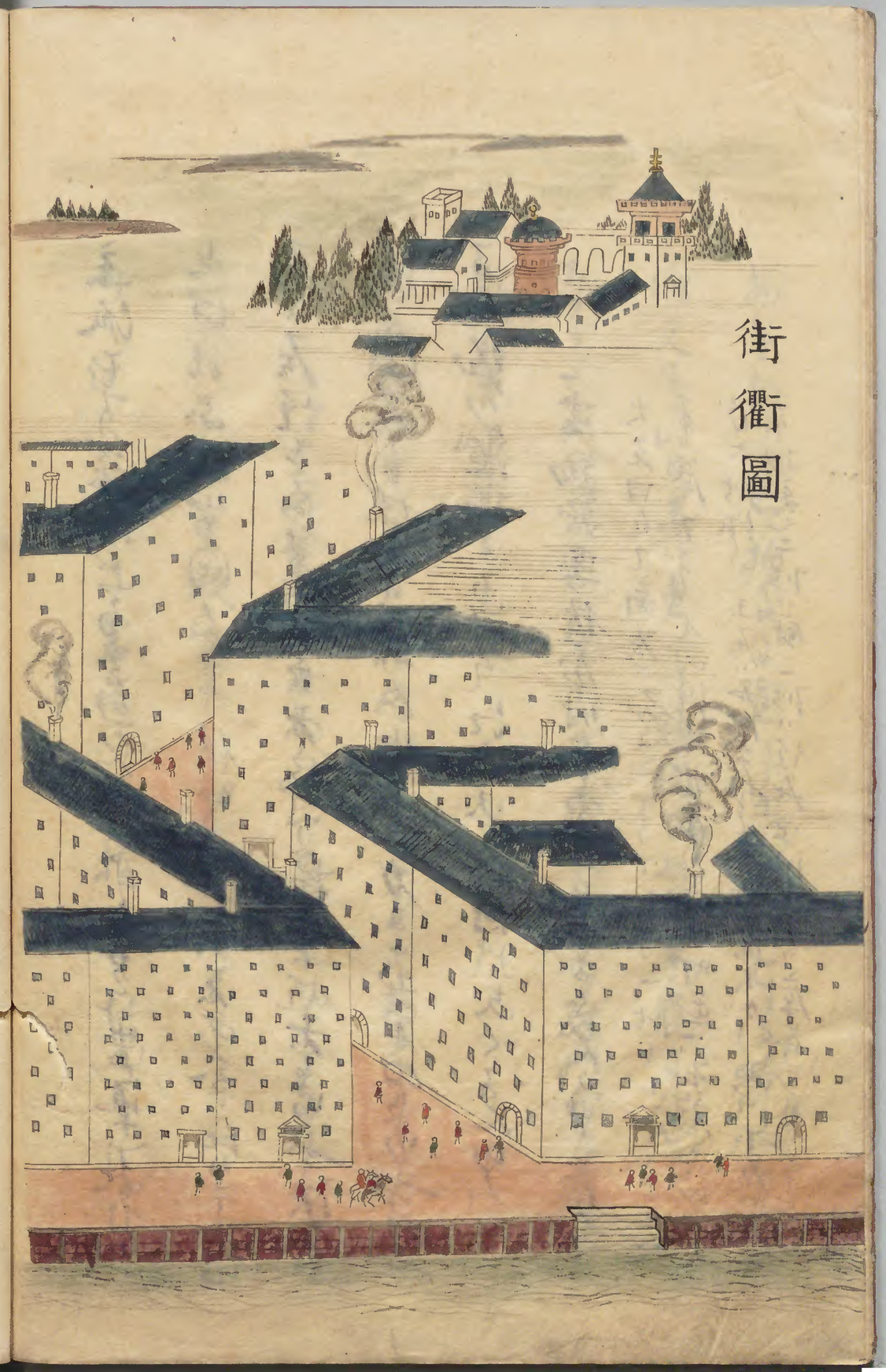
一丁の長さハ日本ハ一丁より少きゝ

拙軍教の事ハ為ハ詳ます

所く迄ゝ所ハり石造り階梯ハて結きり掘ひて

立流なり家作ハ高きのちなれとも合て造築すゝ所
ハ此所ハ至ハ困ると採地ゝ負ハ多の分ハ皆ゝ借
屋ハ居住をるよう候筆ハ者ハ極貧ハ者といふ強ハ
あるゝハ大造の家作ハ自力ハ出来ぬといふ程の
地所ハ縦横ハ画て江戸ハ府内ハ如くゝ甲

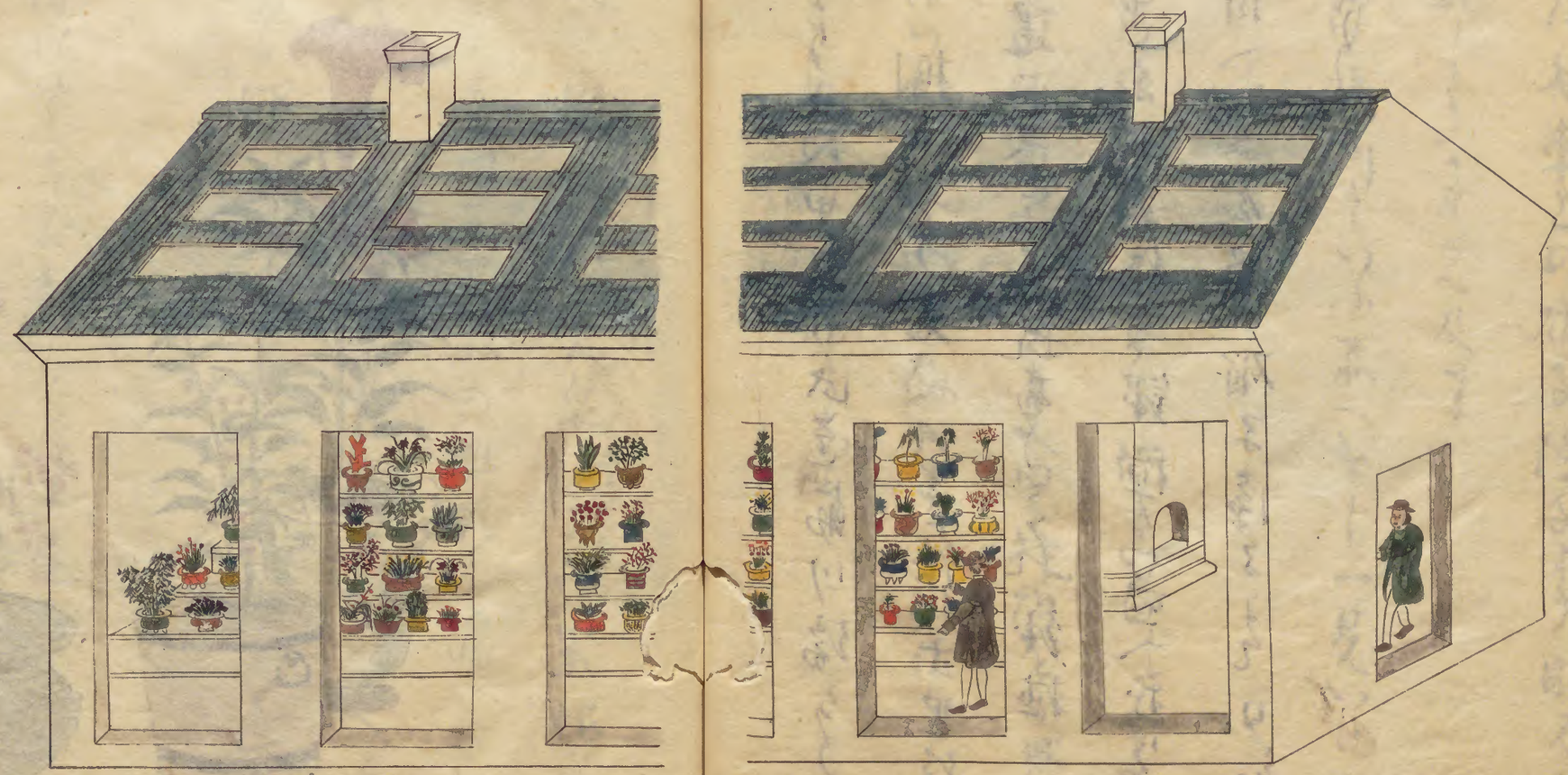
一書物店器技屋物申屋ハ多くゝ入りけり
大光日ハ南ハ所ハ多くゝ二階と下屋とゝ二階
も歴ゝ人の往来ハ面ゝ町並ハ市店ハ多ゝ
皆六階作りゝ王ハ所ハ五階ハ大ゝ面て下屋ハ土蔵
ゝ多ゝ二階ハ厨三階ハ住居四階ゝ庫蔵の用ゝ



江戸おなじあるよしあれたそいへ又ゆ
一はなかをなるよしそふ多人んそ妻女ある老ハ
遊ふへ行事停山のよし市中芝居出もなり
一金平乞食し又魚さし
一穀物等小賣をして自由あると田舎より
小賣といふもあり
一氷りのめき抱あり有て山抱の由
弟ましいるのく歩行ふて家内ををりてと

おく外出の途と毎東との傍る陸より駅(ゲキ)えさる
まてあれハ高しきまつ又及す
一日(アルヒト)岡王の門源所といふ不へきし一見いさせ
ちう
拙よ門源所といふ事を何といいしやふ敏
遊苑の地ちうし文章曰地所をワルスコイ
セロとふ岡王五月晦りちるより移りて七月
晦りと再往しのふちあり

此所へ都下より廿八里あり此辺廻川端ちう皆
大造ちる鉄の欄干ちう先きへ沙を積十里程の百
長屋此ぬく建並べちる此あり又鉄柱物此室
ちう戸を開きお正第御の鉄柱を並へ玉ちう
冷まれい此間へ入る屋根い瓦子葺ちて日鉄を
更る拙ちう



国立公文書館
National Archives of Japan

そもそも波羅蜜の内へ入れ大泉池にて栄枯の海水狂もあるへさらそもそも内は宝船の雛形を深へ玉きり三所作りそ石火矢寄しなり源は五六人を望すしし家業なる作りとも壹見せしそも迷ひそ人を

毎朝切を内北そ[illegible]すに多くそんす是五穀をなく

それをそん物ヲ行ら次に出す

廣庭の内は長サ三寸弦の柱を架しそれは源ひそび

ちゝしゑもあり いろのもゝ 枝垂まさて 松となりし
松子也 茶い 樺よ 紅て 多し 花い 紫て 茎豆 化めし

図

按に𠀋木榕樹るゝ（きしゝ）南方草木狀曰榕樹
南海桂林多植之葉如木麻実如冬青樹幹拳
曲云〻又枝條既繁葉又茂細軟條如藤垂下漸〻
及地藤稍入地即生根節或一大株有根四五處
而横枝及鄰樹而連理云〻又此樹の事桂海虞衡
志泉南雜志五雜俎百川學海海槎餘録南産志廣
東新語等ニモ出ス和漢三才圖會ニハ阿ヅルテルボーム（根樹之義）譯說曰其
初生不異于他樹後枝上生細條飄蕩下垂及地別生
根久而成大株與本幹無異無數連結成巨林其高參
天枝葉蔭〻周圍有及意大里亜里法之一里者其枝
條亦各出細根纚〻垂地近望之殆如以繩索掛樹枝
者
我邦薩摩土佐紀伊等ニ此樹アリ紀州
方言アコウノ木ト云（根ハシヱロホウキノ如シ）琉球ニモ產スト云
薩州大嶋方言ガスヽルト云ヨシ本ト此樹ハ暖
地ノ產ト見ユル十リ

蘭書所載ウラルテルボー樹根山図

此侯見所ざる程しの奇美景はあり

雞冠花石竹花風仙花等咲つゞき殊に

うねの繁をかけらる桶多し

玉庭園大佛大仏通行の路次さき土

よせ堆くし今砂けぬきものを更へ塗り

たるとて絲くひろれり

築山のとまハ橋のまゝ見ゆ

此帝王皇妃毎度幸あり

長殿中の芸屋をえせられしより舞屋十ヲ程に
ひろくして方を塞きて嘯(ウソフク)ふるしめ鞨鼓(ツヅミ)
を鳥(トモ)しるきり白雪のかくるすけりハ王家舞より
陪従の方くと深流人のとまれ者の見物
おし王の見物ふい面なりけるへ玉ハ方(トモ)く
ふきをふるを舞屋笛大鼓琴の
数をおしを音楽を意して王の安りを物る
ふて入りのいきり和歌屋面ハ前色りを佐人(シタカタ)

並屋笛大鼓琴胡弓琵琶ハ
ちまのわき者かを持ちまなりあるあるせ
音曲をあす舞屋ハいろくの俳をかまふる幕
をひく和ハ仕組ハ法玉の事をいふすやふすん
幕出るを仕組のきり俳きめとハえくすかを
事をする時ハ知てかを風あり
草鞋をきし者あるき昔ハ彼玉の土人
ふんしを用ひとえへふり大光日ふまれれる
まよし

又異人(クロンボウ)の出れ事を述す時い家仕り業る男女た、
黑く彩アと紫染手ふ赤くて其国れ風俗あり
戴(ヤリシヤ)る八男女ともて男八男女八女なり男ともて如形と
いふもあり皆時の男る老少れ安かりて年
三百へ出ル云流八文よをせねるい一般の拵ふん
持八世方八芸兵と同れ有やうすと踊の拍
云八男女陸五人拍ル合ふれてあるる事
なるき巖(イハホ)のとる如三人ある兵る三累ちく

と偏り下へ落ちくとまるる庭下り踊り連れル
ある三人数踊りるみ古人拍庭とり一ヒ踊て
くるいめくりて踊るれあり此時見物人八ふを
拍て答るなり王感して踊を打ルるあれ八俗の
見物人ル皆そる立て手タねいあるる拍ふ也
ある三女のた話なり一般れ仕組云流ルとり
らめるれ者ルく八合点せさしるるあるを
三後又一日市中れ大芸兵を見物せしるあり

家ハ石造り瓦根ふく円も無然まるくつくり
たるものゝ又物不ハ土ゐる機械とゆふべき三面
低くトりゐ棚をかきたるものあり又人物も
入らゝく様へなりこれ家内方を蔽き暗黒ふゝて
燈燭を点ぜれ共ゆゑの大燈籠を
下くに用ゐ数挺の燈燭を点ず 唯羽ゐ低くトの
方行ろくゝ共数を多くつ事なる仕りけり
御ゐ所朗なる事言ゐまゝ行きく見物
アカルキ

する者い書見絵巻あるを見物し居る
此美形も図ゐより建ゐるゐ木戸鍵
を人ゐ細鍵五百枚てゐり此の刻合
あるも此鍵もリ〳〵沸る中芝居狂云乃
仕組ゐと注日宮の別鍵ゐ人もられし
部ゐちて刻ゐ形〳〵立も人物ゐ
入せゝゐるゐゝん〳〵て家ゐ魚も設ゐ
玉ゐり

市中大戲場圖

国立公文書館
National Archives of Japan

此日函館に於て入り五月九日を以て完成し本
年に於ては紙の切羽板の釘を為す為用せしめ
たびたび改造を加へたり
又一日授業を為すに当り先生生徒
を
代不町の内を一下半日方九半分の授業を
用ゐ仕切ありて大小乃幼童五百
入口は男子女子の名を書てあり

幼児の外に家毎に縫裁(スイモノ)
洗濯飲食共に方法へ至て育す
生徒は洗ひられ繕古るいさせ始む
不の事業を教ゆといふ計数円を書不
九男女生徒の授いろ〳〵細工あり
お〳〵(ムカシ)との利用ふるに亦可ふしあり
拙は政選已後地方社設あるよ明
人幼院を設まるあり是まるく漂流

人をうゝおくしてくるゝの政海度所と
いふゝ営て出家を伝を修せしみ
都合中設るゝれ 幼院大造の様へあり
手摺の内外ゝ多分より色り板のあり
堂八人ゝ往来係る次第也数る入もい
鎖して出入を止むあ中外貧家なる
もれるを生手にても苦いをこらむへきまぢく
困厄 するもの多し 玉王 友金の方 使を

以てあれを走門表通りよ窓あり捨
児をんよする人 夜中ておるゝて窓
をたゝきあへい内より引出しのあき
異状出れ手内へ児を入もそる
のゝれ年月日時を記しる牌を
入もて投るなり内よいをあて乳
母よて育てさせる法い鈴内よ法氣な
の師匠あり て文くの 学古るをあさ

しめ男女四人童の如むすめ年廿五ヶ
ばかりなる後くまよりの用ゆ使役するや其
四人童を養ふ家の戸口は何月家日
何時生るゝ子といふまでをきゝ牌(フダ)を
うあてをりそ父母あるもの宮(ノミヤ)ハ恩徳
何れ紀ゆ育ちは何なりとをちしらふ
客ゆ又後ゆ問ハ牌の色より按ずるを
をりたの牌を又そを知るなりと

いるをを知るもせもの知ひ問ひ又なりの
るれるかく役事をするゝ人相をひ
廟して邦家ゆ金と問ハ年紀ゆ
入れ時の年月時を問ひ役不ハ邦ハ
廟へ奉へるまりは時宮式ゆ定り
る銀ゆを拾ひ旦宮(ノミヤ)の費用ゆて育て
ゆふ人あれをして一度爵を授け迄し
奉ふこへれまりて宮中路傍ゆ捨四と

いふ事なりしとや

病人其生所も何りと定まりぬれハいるのこにて

一見せし

按に其田舎とし設ありぬれハ必大

設所あるへし

名ハ何といふにや明人ハこれを病院と称せり

予按に所々に設あることゝして中都府の

所にもつへくもり

バウラツケと云所ハ町の内ニ広場にて火除地の

様なる所なりこれハ都下ハ其中にもある所にと

思なるに前ハ方に旦堤書所何り前に川あり川

向ハ町屋にて東義ハ前なり此広場に北都を

見き帝王の德を履こしといふ王の廟今像

あり一丈四五尺程に石を畳こみあげ周りハ鐵

にて三四程同四方に玉垣を囲ふ其こ重とに戸

金鎖ありて一方に出入する王ハ像を囲たりの

よゝハ多個をおちたのもとのもとし馬ハ大
白地をぬきくさせる鮫なり芦人より丈高く
頭ハ髪毛(チヽレケ)赤色逆しく耳ハ鼻ハ高大なり
往来の人通りおろ〳〵見るまてふて
物を居るなといふ事もなし此ものぬき
併ものいふをきかなたり

此王の名ペニノルバイトロ バウロイチと云此
大光日ペートルペルライし和蘭ハピートルゴロートと
とゝよし
此地をバウラツケと云もバウロイチの
係る所をうらゼイノルと云
不比人をもてしり隣国に屬し事任を
履を北ペトルブルカ此地に得て彩都を
開きゝゝ山巣りを為せる白堞を敷と

法民の弧を叔ひゝすゝあるは係る支を
ゝゝやりとなり
按譯説曰噂羅(ウワ)斯(ジヤ)墨兒(ルシ)屬于西魯西亜一
曆數九百九八年 本朝延長八年 ヨリ魯西亜国
主ヲ、ニ都ス一千三百七年 本朝正安二年 北地
ヨリ都ヲモスコウニ遷ス此府ハモスコウノ
東ニアリ
日本里數七十二里ニ在リト ウラゼイノルハ今ロジーノルなり

此新都ヨリ同キシ由来年暦并ニ真王ノ傳
記諸書ニ見エ譯從別ニ有リ
太平傳学ヨリハ都原（モト）ハ「スウエーツケ」（雪際亜）の領
内ヨリ有りしが けるの時ヨリ入れうとあり
王法慕ヨリ通達し法王を任慕するの
除俗しきヨリ細工の業とし物古ヨリ
自ラ作りのふといふあり ノステライ と云
大寺ヨリ例めるうを船の造りうるは王

よりハ此王より始るといふ又法工職の者も
手細工よりて空腹よりも易く腹十分
あるされハよりきヨリさまうるに考や自ラ工
職をあして試みるなりとて法職人へ
添す技指方給ふのあるを職ぐくお
為ヨリ法を学めのふときけり
一日都下を徐行されもし ノステライ といふ
大寺へ一見よをしいふ

寺地へ石ずゑ大寺あり石造りこの内よりハ今
銀にて作りたる佛像多しその中に人皮にて
造る佛或ハ猫と思ふるもあり古瓦へ額に
掛たる佛像あり縁ハ今銀にて作るゆく
先ハ絲麻なり
寺内に壁画の中に有り壁画彩色麗敷
をくはし。ペテルバイトロ バウロ ウイチ 王代世世
の時用いたしとふ 枕又ハ沈香みすなし

ある鉄の杖 竹 萩の間へ入れを仕込む
又何物ともすべ綱代板に横みをを彫り
付たる板もあり手ずれのなる型のふとて
絵しあり竹けて教へ型しうるし
此寺ハ諸王歴代の壁画なりと思もる
和尚 伊須 いふるきものセハ人石異
して深流人へ出会せり冠りもの長袴
袖広中とふ 婦人の用ゆる 袖広中とふ

あるいは下えい筒袖なてしてとふ
ふ物をかぶりたるをすきと衣ハズウイズクと
いふ是のつきしるあや間まの浮衣と大振
同しねはんゆ間ゆの新蔵をあ由乃
宗ちよ入りしにいたれい和尚徳文の
きものを出しゆ夢へられり
拙ようマンステラライを左寺のるゝ少れい尼
俗ちるつ〻けいきれ徳記あしきるあ系

へうしとてをりよりをやしハ遠眼なり
都千年一の大寺ちりとふふを一見ちるり名を
イサカツケゼレコフといふ所の内よあり石作り柱等ハ
磨きたてたる石なて大造ある徳宮あり意匠
まゝ金彼やきりしふ第代のまれ遠嚴を乾
し固め柱へ鈦め一ゑよ一筋つ〻ゑくふふけ戸
芸しハウラゼイメルと云所よ墓切り毛けるよ
其墓より悪しき気立し右 ホリヨコシ 蔵ゆしてえられハ

妻子を人のかくまてるとしと云後世へ傳て
かく大寺を造をせしとなり
抽ヨペトルブルグ都府の広さ、等號を
アレキサンダラ孟フスケイル寺訳せり
和蘭ボ蒲涅爾所撰輿地の書ヨリ出仕者
の賢王アレキサンデル孟フスケイと云る王英
雄なりと人やなるよ人なるて古人
うれを称事すペトル帝新都を建し時ヨ

ヨリ王の柩をウロジメルの地よりもよ遷して
寺觀を建てうりと云 源人の説と符合す
帰帆茶使帰ヨリノットル家ヨ往きしヨ日ヨ天ヨ
て到天にヨ寸経たるの人をとうり源家の甲
世甲の人食麭(ミツホリバン)ヨとよのヤ載录しいろハ源流
人を指さして小人ヨ等しハ彼写ハ日ヨ玉の人セ
汝もまヨ彼玉へ流ろ〳〵全部ヨ玉れ玉ヨ要へら
へしと戯もうれハ日ヨ〳〵いやあり彼人ハ日ヨ

よていあるまし カメイカ人ちゑしといふは小人
何方より来りしと問けれハカルラと人答ふ
こを国の名ら又小人といふ無名ら詳ならさき小人
年二十七歳なりと形小ふりして 髭ありて年
齢よハ娘あて又へふり 初ハ カロシイア 詩をつくい
彼ハ土物を見せり

抽ハ北夷の畫像ハ サモエデンといふ国あり
其人皆矮小なりと 音西亜代ふ所と

なれり 必ずしも国人ならし サモエデン 弾弦ふに
ありさを小人国といふ詩ふ所ふ所
カメイカ人ハ何れの地方ら来りしも近時オ
ロシイアに属セし国のよし 漂流ス筆イルコウ
ツカ 逗留中 カメイカ人といふを見ることを
髪ハ長く髭ハ魯西亜人 日抜ハ丈ハ
日本人程なりしと

国立公文書館
National Archives of Japan

右見学の事百分の一とも いひつくしがたし
皆〻也行此事書るの元 扨て見物の自由
なること又容易なれの疎略なると此
二つにもむすをはすとなし和蘭吉ヨリ
ペトルブルカ此都府要所これを出し示さる
る望洋として知るかなく涉り難しとも
殆しなを也義貿易国を等し異説を
作して参考の一と為す

甚年六月十一日と美へ ガラフさる 汲人を以て
漂されしハ 廿度日おへ使節 取沈漂流人
美て 汲 同 別れ漂流人 右 取へ 同 取送 ん
乃出立用意可 此 都也 各大 収して 一同 雅有 る
徒門しる

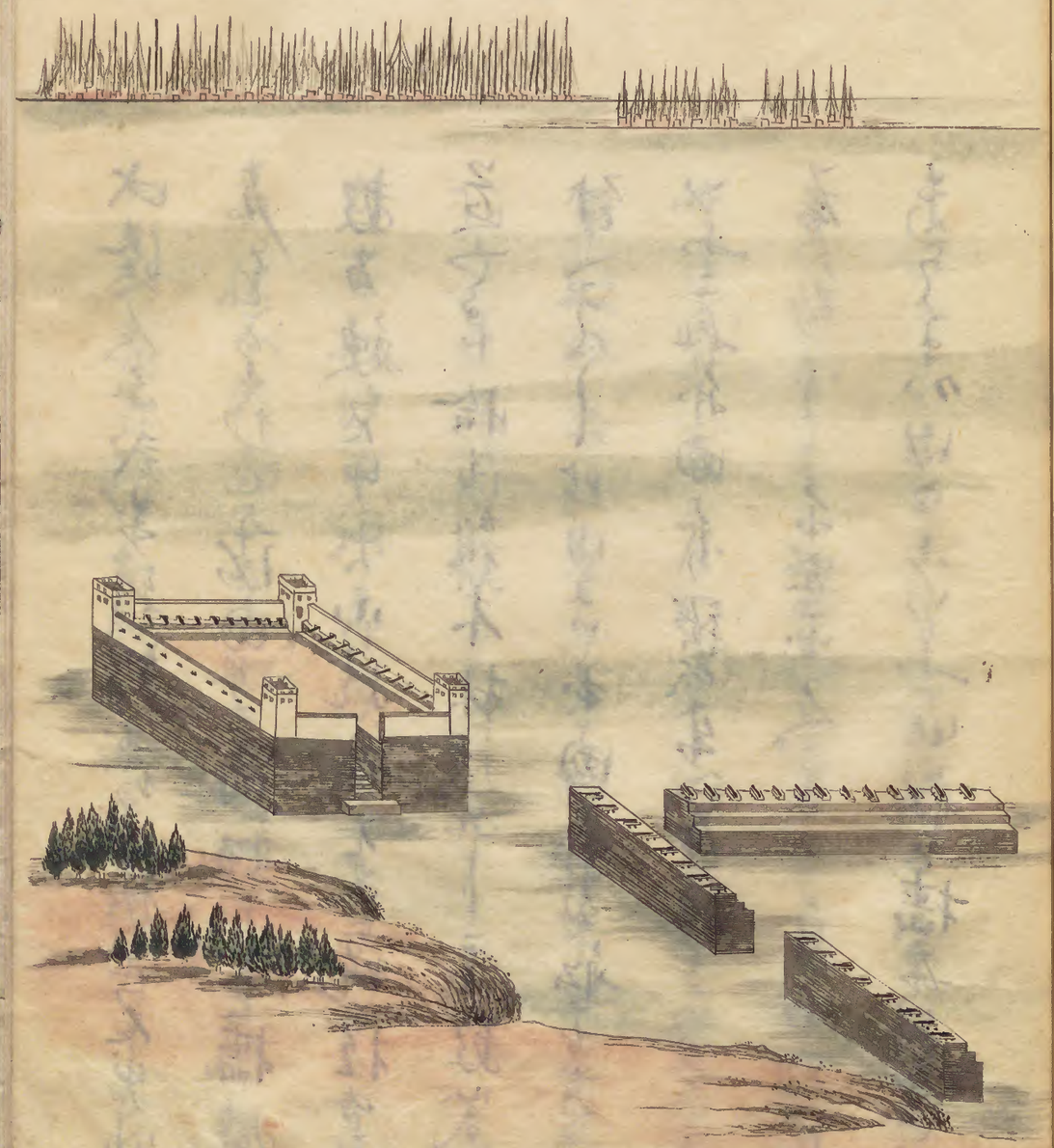
日人を使節の役 「サノウトロ」 呼出 て 義也
しる 新年用の 徒 永 衣 彼 小 嘗 つる 永
翌十二 汲 度 使 年 大年 太十年 廿不出 立

長崎古人の考へ眠とを考へ合せ旅館数軒あり
多く世話をする人々つれ立て一流して列を
造り笛を吹き此節がうフの音楽奏する尼花河
より直ち小舟に乗り右の両岸に入りフ丸汲
人三人乗る新橋を渡り小さき南へ向いて
川筋を下れり川幅八次第に広くなり二十五里
行きて カナスダと云ふ処へ着す
此ポペトルブルカの都へ出入る港口の中央
要害の地なりとは色々聞りて海の如く見ゆ
同夫よりとは不申舟乗りす 拙者は海和蘭ふ
は港地なるより一二里の石切石にて海一築
おし又三里横一里ほど石垣ヲ
築き同ふ手間の内汲入れて築き太
より船の入口五ヶ所を開く其内へ船
数艘を繋ぐ其内に軍船も有り行き
も乗り入れ小船は内より船乗りす

此間をなす石垣のと面より八石火矢数挺
すゝ玉く生御手玉鉄炮玉あり書
不ちも設く
此不絶玉より都の方へ此の入口左右
宮殿ありかく接ゝるうちとゝゆ
又此石より今まあり切石まゝ
たる小屋を作る一軍に方し皆〳〵生平
陣屋板のあとを建て三面より石火矢を並へ

まゝ玉薬の方へ向る方に元おし三面の
用心あり中央に厳を也玉石を大砲
直行を和書一所ともいふ紀録なり

加那斯達湊築出しの図



国立公文書館
National Archives of Japan

武蔵人数千艘ばかりある船に人中沖の方を乗むに法国の商船三艘檣柱の数百艘人中大小船九の帆柱の立ち並つるい恰も雑木林柱めしき数箇百と計へうし此国ふい和国の当船もありと

ふ云和国より義兵軍船とあるを察ふ為ありと千五百人京の自国の軍船もこうるかけるとふ此船い檣ありしを

遠ふ人ふい山のごとくふかつる軍船の大いかうのけふまて造まるとあり此船せ

嘆と昏と為永かつてつるを変つられ軍船の大法なりとか船ふ菜園し

なり牛馬乃厩しありとなり

大大船汐干に帰湊出をするふい船の為招へ大なる空船を一艘と為ふ曳乃

かくつおきつけ船の浮とる根ふて出とと云

抽よりカナスダとゝふ湊ハ和蘭ヨリて澤
して呼つるのコローニスロットあるを和
蘭人の書きとるコローニスロットに於て
使節ハ乃チ書あるしとるれいや和蘭
所擢魯西亜國志ニ「コローニスロット」ハ新
都ペトルブルカヲ去ルコトイワランドノ里法
ニテ凡ソ四里舟船湊會ノ要港人民舊
盛ナリコヽニ要害ヲ構テコノ所ヨリ富ヽ行

德海ニ注アリ
大光曰カナスタハカラニスタニ オストロワ嶋ある
を以て北ふよりあり嶋よりて都より五里南
てゝとゝいふ
再び漂客雑乃第四大洲分部を熟閲する
よペトルブルカヲ少し離れる一宮あり其
名を彼國言ヨリて KROHINTdamb とゝなり
必ず此れをカナシタと字得りてよあるし

日すこし　山陰より走り星の如く　船中へ嗚（ヲニて）船して　潜出し日
本使節船へ乗移り
使節の役ヒサノツトを失なて　船内騒動をおこし　船底をかくしの
役ちがひ　ふのもしヒサノツトの箱へ出を方
護送の船を附き　をくり　出ぶり使民奉親
をて　全浅草寺　参詣　去流す
ものを　船へ　場ふ　ふ　ふ　謝して
を　ふ
ガラフハ　船　ハ　ち　船へ　乗り　出　ふ　ふ　ふ　ふ
のもしもしより　日行　もしへの　ねだ　ハ　もし　出
可去流の　ハ　ち　船　ち　船　ち　船へ　乗　船　ち
迎引　ち　ち　ち　ち　ち　ち　使節へ　渡　嘱
都へ　ハ　ち　し　は　遠　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　れ　国王　逝　辰　の　役　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　て　ち　ち　日　都　の　ち　ち　ち　ち　ち　ち

船中の人の話を聞て国王山に不至ありて
永くまかりのぼり船中に一夜をすごし国
永の者共を路達者にて海路日並日か
のまちに着しく入て明れと命ありしと
語る

いかがラフラ珍源まりし三人年ニコライ新嘉
哈もして都へ出れる
お新京住の人数汽人ハ大抵就任人もう新方の
者ハ路人領ゆ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan